



ケア  
×  
アート

いき  
いき

CARE×ART IKI IKI HOSPITAL

ホスピタル

平成 25 年度文化庁助成 [大学を活用した文化芸術推進事業] 筑波大学プログラム報告書

「適応的エキスパート」としてのアートマネジメント人材の育成

—病院を活用した多様空間・異分野協働によるアートマネジメント能力の向上に向けて—

BEYOND MUSEUMS: ARTS MANAGEMENT PROGRAMS IN A MEDICAL ENVIRONMENT SUPPORTED BY ARTISTS, DESIGNERS AND CURATORS

# CARE × ART IKI IKI HOSPITAL



筑波大学附属病院



筑波メディカルセンター病院

# ケア ✕ アート いき いき ホスピタル

CARE×ART IKI IKI HOSPITAL

平成25年度文化庁助成〔大学を活用した文化芸術推進事業〕筑波大学プログラム報告書

「適応的エキスパート」としてのアートマネジメント人材の育成

—病院を活用した多様空間・異分野協働によるアートマネジメント能力の向上に向けて—

BEYOND MUSEUMS: ARTS MANAGEMENT PROGRAMS IN A MEDICAL ENVIRONMENT SUPPORTED BY ARTISTS, DESIGNERS AND CURATORS

第1章  
調査に行こう！

第2章  
トークをきこう！

第3章  
病院アートプログラム  
を实践しよう！

第4章  
インターンシップへ行こう！

第5章  
アートコーディネーター  
の仕事とは？

05…… ごあいさつ

06…… 事業概要

## 07 1 調査に行こう！

08…… リサーチ報告 イギリスの病院アートマネジメント

11…… リサーチ報告 アナグリウス ケイ子氏による庭園療法

## 13 2 トークをきこう！

14…… 日英シンポジウム CULTURES OF CARE アートとヘルスケア

17…… シンポジウム 病院のアートを育てるために

## 19 3 病院アートプログラムを实践しよう！

20…… 病院ガーデンの設計と施工 附属病院入口バス停前庭リニューアルプロジェクト

21…… 芸術支援プログラム 附属病院附属美術館の計画

22…… 精神神経科ワークショップ まちなみを描こう

23…… 病院に居場所をつくる空間改修 こもればカーテン／つつまれサロン

24…… 小児病棟ワークショップ 夜空であそぶ／映像制作 世界糖尿病デーイベント告知ムービー

25…… 小児病棟における「能動アート」プログラムの研究 「花火を描こう！」ワークショップ

26…… 展覧会 けやきから生まれるいのちII——病院のアートの芽

## 29 4 インターンシップへ行こう！

30…… 病院アートマネジメント インターンシッププログラム——水戸芸術館

31…… 「美術待合室」およびシニア対象企画の活動事例について  
中野詩

## 33 5 アートコーディネーターの仕事とは？

34…… 筑波大学附属病院のアートコーディネーター

35…… 筑波メディカルセンター病院のアートコーディネーター

36…… 英訳

38…… 記録資料

## ごあいさつ

筑波大学は、10年ほど前から、アートやデザインの力によって、病院における療養環境の改善を目指す活動を続けてまいりました。

芸術専門学群の授業「アート・デザインプロデュース(adp)」から生まれ、「病院の空気をおいしくする」ことをモットーに活動している学生チーム「アスパラガス」と「パブリカ」は、本学附属病院や筑波メディカルセンター病院においてワークショップやイベントを病院のスタッフのみなさんや患者さんと行い、親切、感謝、笑顔による心の交流を実現しております。

一方、美術館などアートマネジメントの世界でも、人間の「健康」や「幸福」の追求が強く意識されるようになっていきます。英国政府の文化機関であるアーツ・カウンシルは、国際シンポジウムを通じて、「アートやミュージアムは人間の健康や幸福に何ができるか」を問いかけています。

病院には患者さんを治療(キュア)する医師、お世話(ケア)する看護師がいるように、美術館には学芸員(キュレーター、語源はキュア、ケア)がいます。これからの学芸員は、美術館だけでなく、病院など広く社会生活の現場で人々と向き合い、人間の「健康」や「幸福」の実現を目指すことが求められています。

平成25年度文化庁助成筑波大学プログラム『『適応的エキスパート』としてのアートマネジメント人材の育成—病院を活用した多様空間・異分野協働によるアートマネジメント能力の向上に向けて—』は、その実現のための第一歩です。

本事業への助成を賜った文化庁、大和日英基金、グレイトブリテン・ササカワ財団、ならびに協力を賜った筑波大学附属病院、病院のアートを育てる会議、筑波メディカルセンター病院、水戸美術館、英国イーストアングリア大学、英国ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院ほか関係者各位に対し、この場を借りてお礼申し上げます。

平成26(2014)年3月  
プログラム主催者

筑波大学で病院のアートが生まれたのは2002年。芸術系教員が、筑波大学附属病院、近隣の筑波メディカルセンター病院を拠点とし、アート・デザインによる療養環境改善に主眼を置いた医療支援活動を始めたのが契機となっている。以降、筑波大学芸術では、さまざまな分野の教員と学生が、両病院にて活動を展開してきた。本書では、2013年度に行われた活動を中心に紹介する。

#### ■筑波大学芸術専門学群

教育課程=以下、4専攻、15領域から成る

芸術学専攻(美術史コース、芸術支援コース)、美術専攻(洋画コース、日本画コース、彫塑コース、書コース、特別カリキュラム版画)、構成専攻(総合造形領域、クラフト領域、構成領域、ビジュアルデザイン領域)、デザイン専攻(情報デザイン領域、プロダクトデザイン領域、環境デザイン領域、建築デザイン領域)

(2013年現在)

#### ■筑波大学附属病院

病床数=800床

外来患者数=1,530人/日

入院患者数=661人/日

平均在院日数=15.2日

救急車搬送件数=1,864人

(2012年度実績数)

#### ■筑波大学メディカルセンター病院

病床数=413床

外来患者数=505人/日

入院患者数=370人/日

平均在院日数=12.6日

救急車搬送件数=5,124件

(2012年度実績数)

これから  
僕たちゴブリン\*が  
「いきいきホスピタル」を  
紹介していくよ!

\*ゴブリン……いたずら好きの妖精



## [事業概要]

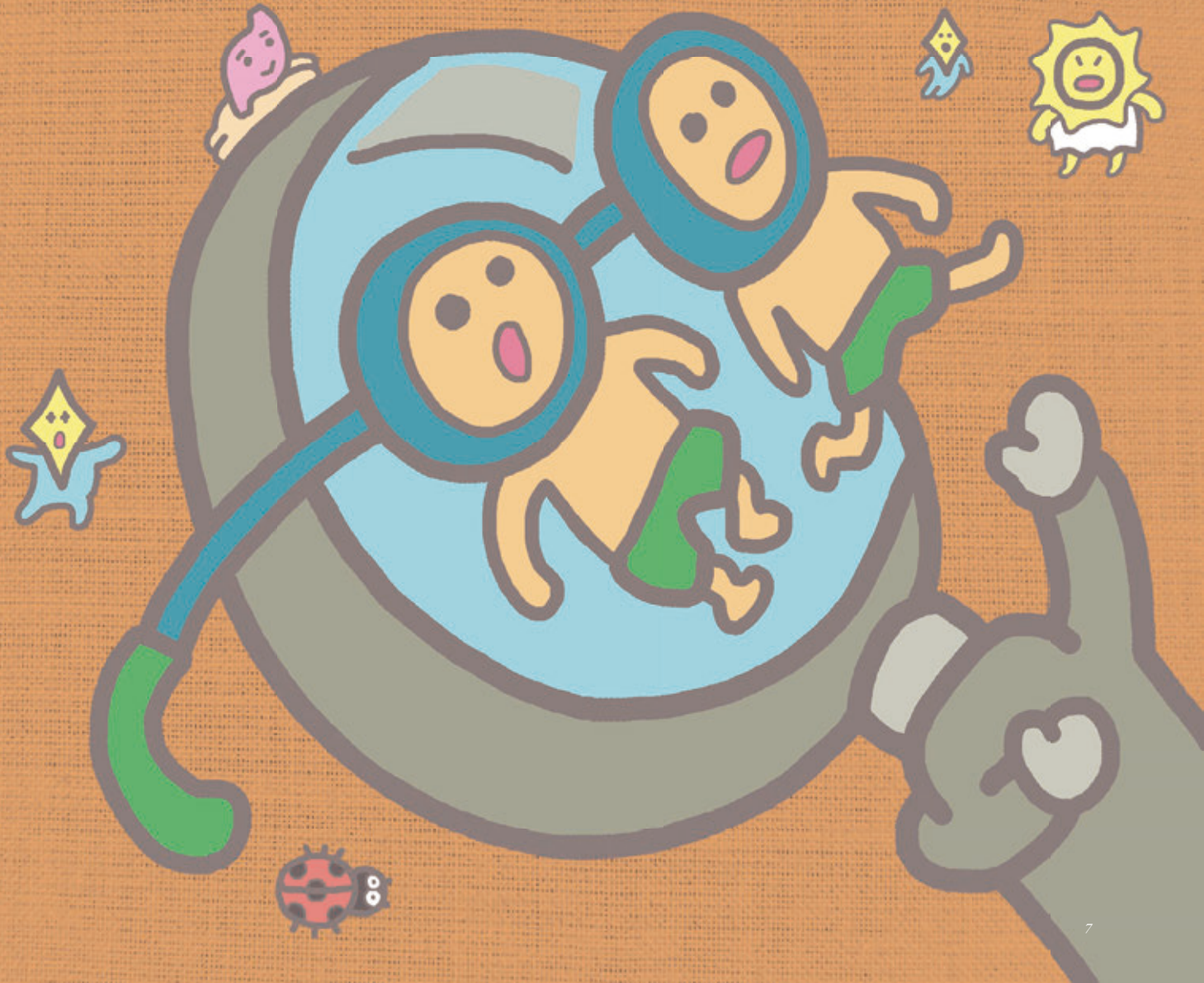
「適応的エキスパート」としてのアートマネジメント人材の育成

一病院を活用した多様空間・異分野協働によるアートマネジメント能力の向上に向けて一

1. この事業は、文化庁からの補助金(平成25年度文化芸術振興費補助金[大学を活用した文化芸術推進事業])により、筑波大学芸術組織(芸術系、芸術専門学群等)が、筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院、水戸芸術館、英国イーストアングリア大学、英国ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院等と協力して行うアートマネジメント人材育成プログラムである。
2. この事業は、美術館はもとより、病院をはじめ多様な空間においてアート&デザインを展開できる、企画力・応用力・実行力のある「適応的エキスパート」としてのマネジメント人材の育成を目的としている。
3. この事業は、病院における芸術受容に関する特性を把握し、アート&デザインの企画・作品制作・展示・運営・広報などに関する実地研修を通じて、専門的人材を養成するカリキュラムを開発・実施する。その後、他の大学・病院・美術館・各種関連施設において応用展開できるプログラムとして普及させる。

※本書に掲載された各肩書きは、事業実施当時のものである。

# 調査に行こう!



## リサーチ報告

イギリスの  
病院アートマネジメント

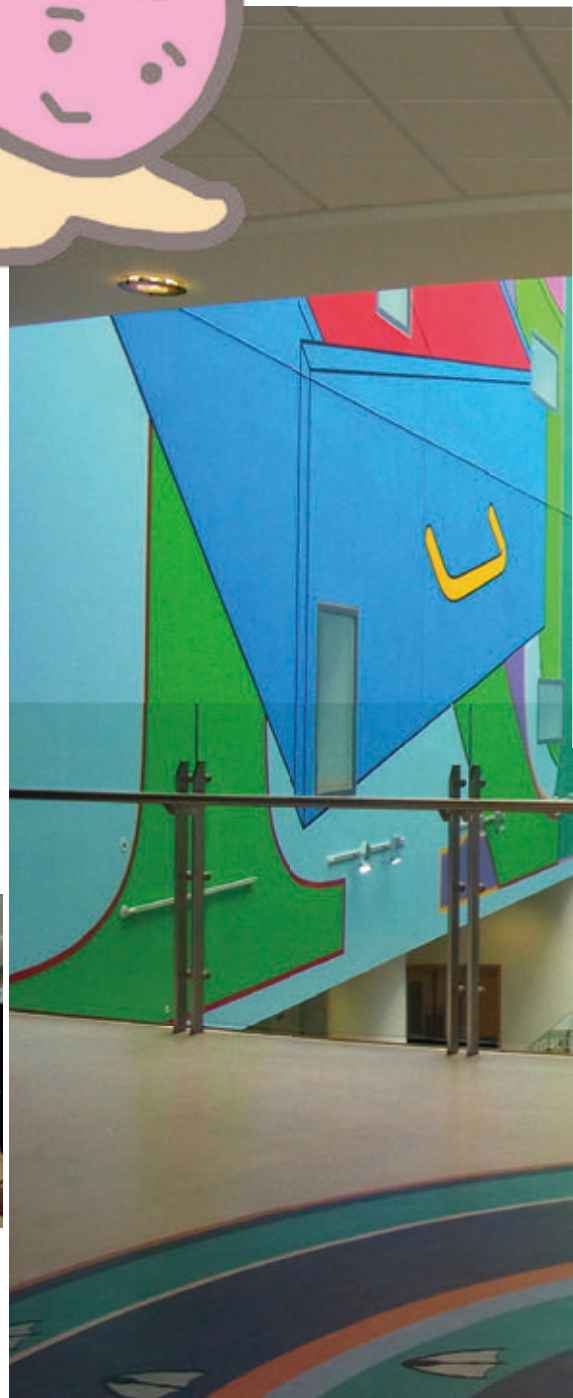
病院アートマネジメントに関する先進的事例を研究するため、6月と9月の2度にわたり、イギリスにて調査等を行った。2013年6月には芸術系助教がブリストルでの文化健康国際会議にて招待講演を行った。9月には芸術系教員、研究員、附属病院看護部顧問が調査を実施した。王立ブロンプトン・アンド・ヘアフィールド病院では、病院アートコーディネーターの案内のもと、院内のアートプログラムを調査し、「呼吸機能のための歌唱ワークショップ」に参加した。チェルシー・アンド・ウェストミンスター病院では、建築空間を生かした巨大彫刻などを見学した。イースト・アングリア大学ではセインズベリー視覚美術センターを見学した。ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院、オックスフォード大学附属病院においてアーツ・イン・ホスピタル・プログラムを調査した。



ノーフォーク・アンド・ノーリッチ  
大学附属病院のアトリウムに設け  
られた樹のモビール作品

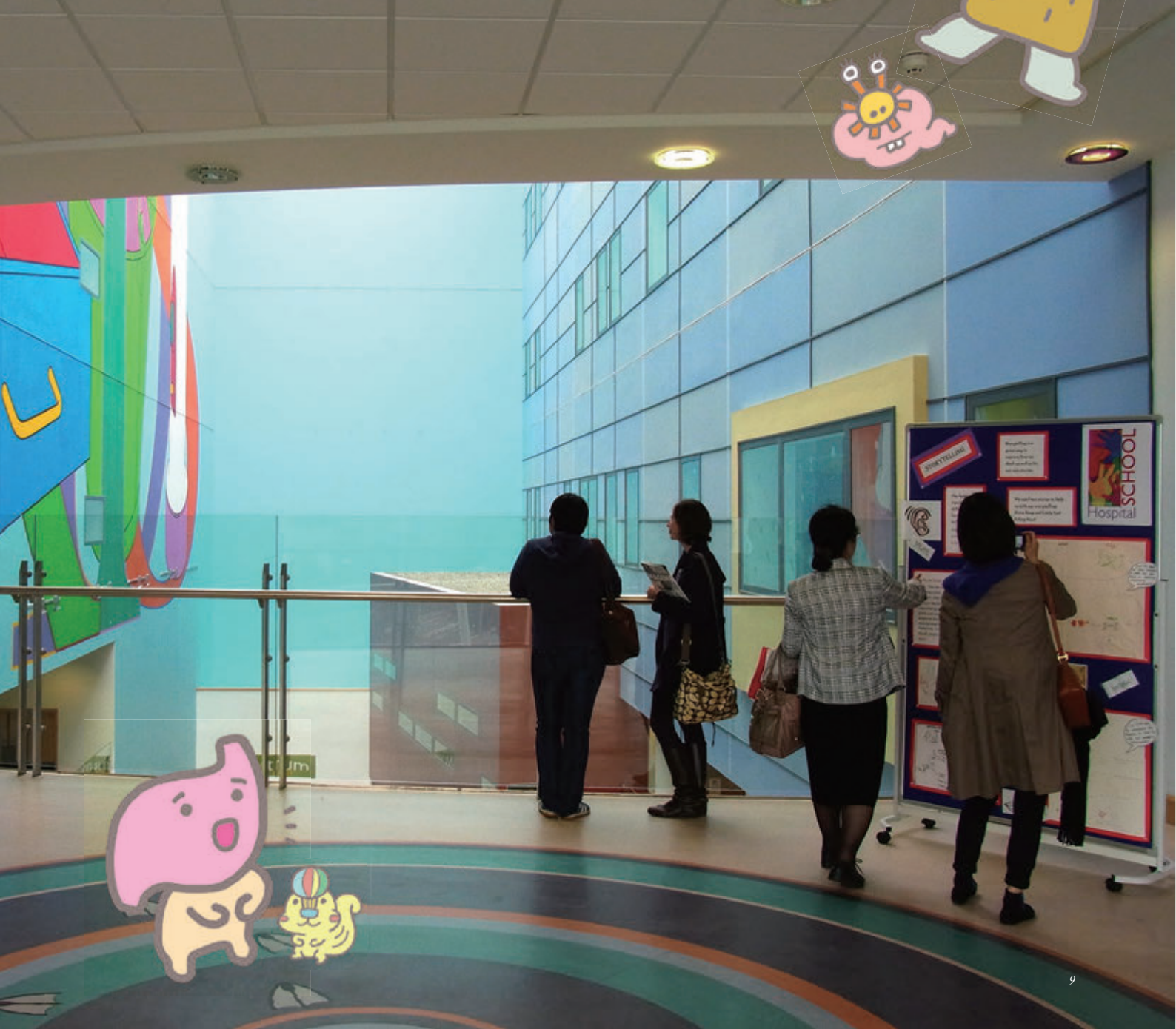


同病院の小児病棟において改修されたプレイルーム





オックスフォード大学附属病院のアトリウムには、世界的に有名なアーティストであるマイケル・クレイグ・マーティン氏によるカラフルな壁画

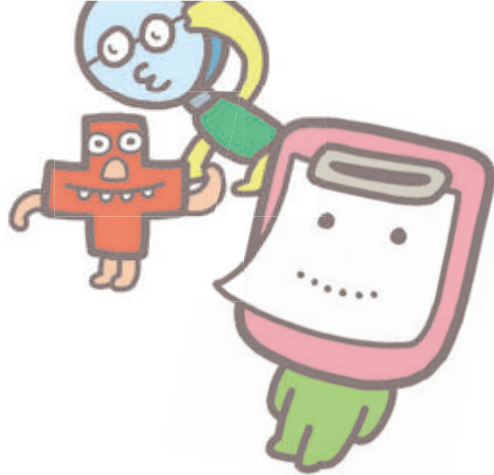




同病院の中庭は、樹の作品の周りを川が流れる



ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院に設けられたチャペル



### ●第1回 イギリス調査

日程 = 2013年6月21日(金) ~ 7月2日(火)

訪問先/調査内容 =

■ブリストル市役所/文化健康国際会議(「カルチャー、ヘルス、ウェルビーイング」)にて招待講演

■ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院(ノーリッチ)、イースト・アングリア大学(ノーリッチ) / 病院アートマネジメントの調査

■大和日英基金(ロンドン) / 意見交換

参加者 = ハーベス・リム・フォンデヴィリヤ(芸術系助教)

### ●第2回 イギリス調査

日程 = 2013年9月23日(月) ~ 26日(木)

訪問先/調査内容 =

■王立プロンプトン・アンド・ヘアフィールド病院(ロンドン) / 院内のアートプログラムの調査、「呼吸機能のための歌唱ワークショップ」への参加

■チェルシー・アンド・ウェストミンスター病院(ロンドン) / 建築空間を生かした巨大彫刻等の調査

■ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院(ノーリッチ) / 小児科病棟など院内の彫刻や絵画、庭園の休憩スペース、院内チャペル、バックヤード、機械室等の見学

■イースト・アングリア大学(ノーリッチ) / セインズベリー視覚美術センター、セインズベリー日本藝術研究所を訪問見学

■オックスフォード大学附属病院(オックスフォード) / アーツ・イン・ホスピタル・プログラムを調査

参加者 = 齊藤泰嘉(芸術系教授)、貝島桃代(芸術系准教授)、ハーベス・リム・フォンデヴィリヤ(芸術系助教)、岩田祐佳梨(大学院博士後期課程芸術専攻)、三ヶ田愛子(附属病院看護部顧問)



第1章  
調査に行こう!

第2章  
トークをきこう!

第3章  
病院アートプログラム  
を実践しよう!

第4章  
インターンシップへ行こう!

第5章  
アートコーディネーター  
の仕事とは?



## リサーチ報告 アナグリウス ケイ子氏による 庭園療法

庭園療法の実践の場には小屋があり、そこで料理や作業を行う



階段踊り場



庭園療法プログラムの一環で、職員がクッキーをつくる



新棟エレベーター前の壁面。新棟の至るところが柔らかな色彩で彩られている

### ● 阪南病院調査

日程 = 2013年12月3日(火)

訪問先 / 調査内容 = 阪南病院(大阪府堺市) / 病院内のアートや庭園療法プログラムの見学、アナグリウス ケイ子氏並びに病院スタッフとの意見交換

参加者 = 筑波大学教員、学生、研究員、インターンシップ生(計7名)



大阪府の阪南病院にて取り組まれている「アート・イン・ホスピタル」の実践を見学した。阪南病院は、1956年に開設した大阪府内でも有数の精神科病院である。2010年より新棟設立を機にデザイナーのアナグリウス ケイ子氏を迎え、心と身体に優しい環境をつくるべく「アート・イン・ホスピタル」を始動した。1階の庭園では、看護師教育の一環としてアナグリウス氏による3年の庭園療法プログラムを実践している。庭園で野菜や果物、ハーブなどを育て、それを収穫して調理し、皆で食べる。そのほか患者さんとのワークショップを行ったり、院内の壁面やエレベーターなど至るところにアナグリウス氏のアートが介在し、柔らかく居心地のよい空間をつくり出していた。また、後日、本学にてアナグリウス ケイ子氏によるレクチャーと庭園療法の実践を行った。



受講生によるクッキング(筑波大学)

アナグリウス ケイ子氏によるレクチャー(筑波大学)



- トーク&クッキングセッション
- タイトル=アナグリウス ケイ子のセラピーガーデン
- 日程=2013年12月17日(火)
- 場所=筑波大学芸術系棟



# トークをきしろう!



第1章

調査に行こう!



第2章

トークをきこう!

第3章

病院アートプログラム  
を実践しよう!

第4章

インターンシップへ行こう!

第5章

アートの  
制作



# 日英シンポジウム CULTURES OF CARE アートと

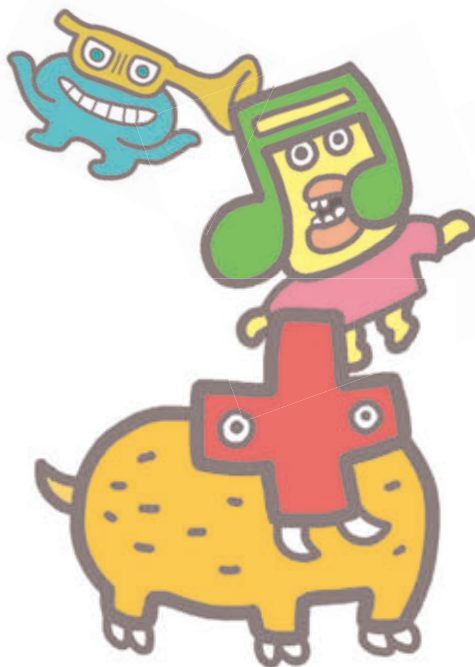


左: エンマ・ジャービス氏(ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院アートコーディネーター) / 右上: ウルリッヒ・ハインツェ氏(イースト・アングリア大学セインズベリー日本藝術研究所ササカワ研究員) / 右下: ベルナルド・ブエノ氏(イースト・アングリア大学アシスタント・チューター)





## ヘルスケア



イギリスのイースト・アングリア大学、ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院からゲストを迎えた国際シンポジウム。病院のアートをカルチャーズ・オブ・ケアととらえ、その企画運営について日英の関係者による報告と意見交換を行い、相互の啓発を図った。アートコーディネーターを中心に病院職員との関係性を築き、地域の住民やアーティストの参加を募りながら院内の環境をコーディネートしているイギリス。芸術の学生を中心に患者や病院職員らに寄り添いながらワークショップや環境のデザインを行なっている日本。それぞれの取り組み方の違いを確認することができた。



来日したゲストを病院にご案内



アスバラガス(→p22)の学生たちがゲストを「アートステーション SOH」(渡り廊下)に案内し、活動について説明



**タイトル**=日英シンポジウム「CULTURES OF CARE アートとヘルスケア」

**日程**=2013年9月4日(水)、5日(木)

**会場**=筑波大学附属病院けやきプラザ

**主催**=病院のアートを育てる会議、筑波大学芸術系、筑波大学附属病院、イースト・アングリア大学、ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院

**後援**=筑波大学芸術系社会貢献推進室、筑波メディカルセンター

**助成**=文化庁、大和日英基金、グレイトブリテン・ササカワ財団

**プログラム内容**=

●4日(水)

「イースト・アングリア大学における日本文化研究」ウルリッヒ・ハインツェ(イースト・アングリア大学セインズベリー日本藝術研究所 ササカワ研究員 現代日本視覚メディア) / 「ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院のアートプロジェクト1」エンマ・ジャーヴィス(ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院アートコーディネ

筑波大学 JAZZ 研究会によるジャズ演奏



ーター) / 「癒しとしてのライティング」ベルナルド・ブエノ(イースト・アングリア大学アシスタント・チューター) / 「病院のアートを育てる」貝島桃代(芸術系准教授) / 「アスバラガスとパブリカでの体験」岩田祐佳梨(大学院博士後期課程芸術専攻) / アスバラガスによるワークショップ

●5日(木)

「ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院のアートプロジェクト2」エンマ・ジャーヴィス(ノーフォーク・アンド・ノーリッチ大学附属病院アートコーディネーター) / ラウンドテーブルディスカッション/ジャズ演奏 渡和由(芸術系准教授) + 筑波大学 JAZZ 研究会



## シンポジウム

# 病院のアートを育てるために

筑波大学芸術系がアート活動を実践している病院の院長らによるトークセッション、アート活動を始動した蓮見孝氏や医療安全管理者でありアートディレクターとして活動している山口(中上)悦子氏による講演を行い、医療とアート・デザインの双方の立場からケアとアートのあり方を考えるシンポジウム。病院でのアート活動を展開する時のキーワードとして、両者が協働でプロセスを大切にすること、そのためにアートコーディネーターが重要であること、脱ビジネス化された関係性や日常にあるノイズを持ち込むこと、病院を一つのコミュニティとして考えること、医療の質を高めるものとして多角的な視点からアートを捉えることなどがあげられた。



約100名の来場者があり、シンポジウム後は別会場にて懇親会を開催



蓮見孝氏(札幌市立大学学長、筑波大学名誉教授)

山口(中上)悦子氏(大阪市立大学医学部付属病院 医療安全管理部専任安全管理者)



タイトル=「けやきから生まれるいのちII——病院のアートの芽」展 シンポジウム「病院のアートを育てるために」

日程=2014年1月29日(水)

会場=筑波大学附属病院けやきプラザ

主催=病院のアートを育てる会議、筑波大学芸術系、筑波大学附属病院

後援=筑波大学芸術系社会貢献推進室、筑波メディカルセンター

助成=文化庁

#### プログラム内容=

トークセッション「医療が病院のアートに期待すること」五十嵐徹也(筑波大学附属病院長)、軸屋智昭(筑波メディカルセンター病院長)、司会: 貝島桃代(筑波大学芸術系准教授) / 講演「筑波大学で生まれ育った病院のアート ～いち輪の花を咲かせた仲間たち～」蓮見孝(札幌市立大学学長、筑波大学名誉教授) / 講演「医療の質と安全の視点から見た病院のアート活動」山口(中上)悦子(大阪市立大学医学部付属病院 医療安全管理部 専任安全管理者)

参加者数=約100名

左から、五十嵐徹也氏(筑波大学附属病院長)、軸屋智昭氏(筑波メディカルセンター病院長)、貝島桃代氏(筑波大学芸術系准教授)



# 病院アートプログラム を実践しよう!





病院ガーデンの設計と施工



# 附属病院入口バス停前庭



## リニューアルプロジェクト

環境デザイン領域の学生が中心となって取り組むガーデンの計画。筑波大学附属病院の最寄りのバス停前に、病院への来院者を出迎え、また患者の癒しの場となるようなセラピーガーデンをデザインした。芝をはがすところから耕耘作業、苗や球根の植え付けまで手作業を中心に制作。約40種類の春に咲く花と10種類のハーブを中心に、彩り豊かにデザインし、約90m<sup>2</sup>の花壇が完成した。作業中、通院中の人や病院職員から声をかけられるなど、その様子は多くの目をひいたようである。今後、患者の方々はもちろん、病院職員、学生、近隣の住民が集うコミュニティガーデンとしても機能するような管理の仕組みを提案していく。



球根と苗の植え付けを終えたばかりのガーデン

授業名=環境デザイン演習(秋学期)

場所=筑波大学医学図書館前(バス停「筑波大学病院入口前」前広場)

日程=2013年11月~2014年3月

コース=環境デザインコース

受講者数=7名(稲見不二意、奥村瑛莉奈、黄欣涛、竹淵翔太、趙麗華、中塚翔子、イーエ・マルブーア)

担当教員=鈴木雅和



第1章  
調査に行こう!



第2章  
トークをきこう!

第3章  
病院アートプログラム  
を实践しよう!

第4章  
インターンシップへ行こう!



第5章  
アートゴ  
の



芸術支援プログラム

## 附属病院附属美術館の計画

授業名 = 芸術支援学 IIA-2(秋学期)  
日程 = 2013年11月~2014年3月  
コース = 芸術支援コース  
受講者数 = 7名  
担当教員 = 齊藤泰嘉



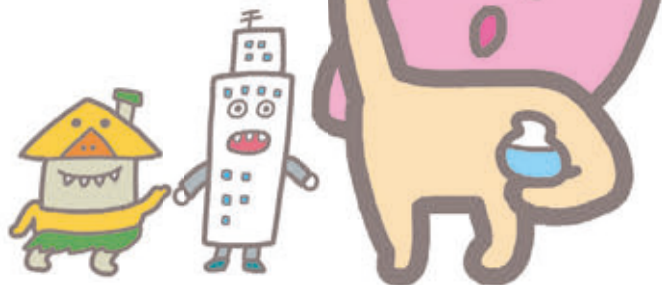
横幕達也(芸術専門学群生)「Seed美術館」



筑波大学附属病院附属美術館を事例とした新型美術館建設の企画書づくりを行った。これからの学芸員は、美術館だけでなく、病院をはじめ広く社会生活の現場で人々と向き合い、人間の健康や幸福の実現を目指すことが求められている。受講生は、筑波大学附属病院に展示されている絵画、書、映像、写真作品などを見学し、構想を練った。授業において、瀬戸内海にある豊島美術館や、軽井沢千住博美術館など新型美術館について学習した。新型美術館の名称、基本的性格・キーワード、病院についての考察、建設場所(与条件)、利用者(与条件)、機能などを考慮し企画書の作成を行い、発表した。



## 精神神経科ワークショップ まちなみを描こう



9年目を迎えた、病院でアート活動を行う学生のチーム「アスパラガス」。今年度は病院職員の依頼により精神神経科を中心に活動した。精神神経科は、ほかの病棟よりも外出の機会が少なく病棟内で過ごすことが多いことが特徴である。そのため、病棟内の共用空間を患者や病院職員が自分たちの手で環境を彩ることができるワークショップを企画。過去のアスパラガスのワークショップを見ながら、病院職員と話し合いを重ね、食事室の窓から見えるまちなみや季節の移ろいを見て感じられるよう、ワークショップ「まちなみを描こう」を実施した。マスキングテープで風景をなぞり、そのなかに特殊な絵の具を塗ることで、ステンドグラスのように窓を彩ることができた。

**授業名**=アート・デザインプロデュース演習(adp)  
**場所**=筑波大学附属病院 精神神経科  
**日程**=2013年12月25日(水)  
**ワークショップ参加者数**=患者:10名、病院職員:3名  
**コース**=全学群  
**実施グループ**=アスパラガス(大政愛、伊藤さや香、井上大志、出口真帆、中島靖雄、中塚翔子、翠川亜純)  
**担当教員**=貝島桃代、内山俊朗、村上史明

ゼラチンを混ぜた粘度の高い絵の具で、窓に色を塗る患者と学生たち



病院職員とアスパラガスの学生は過去のワークショップや病棟の特徴について意見を交わし、実施するワークショップのアイデアを膨らませた



第1章  
調査に行こう！

第2章  
トークをきこう！

第3章  
病院アートプログラム  
を実践しよう！

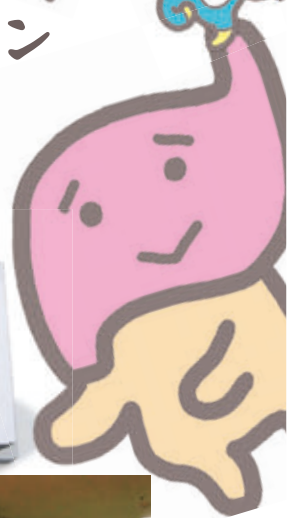
第4章  
インターンシップへ行こう！

第5章  
ポートフォリオの



病院に居場所をつくる空間改修

## こもれびカーテン/つつまれサロン



「こもれび」のような柔らかく暖かい光が溜まる窓辺を目指し、丸く淡い光をクレヨンで描いたような柄をデザインした



デザインで療養環境の改善を行う学生チーム「パブリカ」は、患者や家族が過ごす居場所の改善を2年間にわたり行った。場所は筑波メディカルセンター病院の「外来ラウンジ」と「家族控え室」。どちらも四角い部屋に、寄せ集めのイスや机が雑然と並ぶ空間だった。そこで各部屋の使い方や運用状況を調査して課題点を探り、新しい使い方のアイデアを出す「妄想ワークショップ」を病院職員と学生で実施。医療側と芸術側が議論を重ね、「外来ラウンジ」にはひだまりのような窓辺空間を目指しカーテンを設置。「家族控え室」では鏡やソファを設置し患者が家族に囲まれながら散髪ができ、普段は控え室として居心地の良い空間をデザインした。

上：「つつまれサロンの」改修案。2014年3月完成予定/下：「妄想ワークショップ」で病院職員とパブリカの学生がアイデアを出し合う様子

授業名=アート・デザインプロデュース演習(adp)  
場所=筑波メディカルセンター病院  
日程=2012年4月~2014年3月  
「妄想ワークショップ」参加者数=病院職員:33名  
コース=全学群  
実施グループ=パブリカ(市川由佳、亀崎玲奈、木下香菜、久具山桃子、古賀優斗、小暮春佳、島田文、須藤諒一、松本造、村上怜央、安田泰弘、山口大空翔)  
担当教員=貝島桃代、内山俊朗、村上史明





左：完成した映像作品を仰向けになって鑑賞する患者、家族、病院職員



夜空に浮かべるものを描く

#### ●「夜空であそぶ」

場所=筑波大学附属病院小児総合医療センター  
プレイルーム

日程=[ワークショップ] 2013年6月12日(水)、  
7月3日(水)、11月6日(水)、13日(水) / [完  
成上映会] 7月24日(水)、12月4日(水)

参加者数=[ワークショップ] 各回患者：7～8名、  
家族：19～20名 / [完成上映会] 各回患者：5  
～9名、家族：7～31名

企画・運営=田中みさよ(大学院人間総合科学研  
究科芸術専攻)

担当教員=村上史明



世界糖尿病デーイベントの告知ムービー

## 小児病棟ワークショップ 夜空であそぶ / 映像制作 世界糖尿病デーイベント告知ムービー

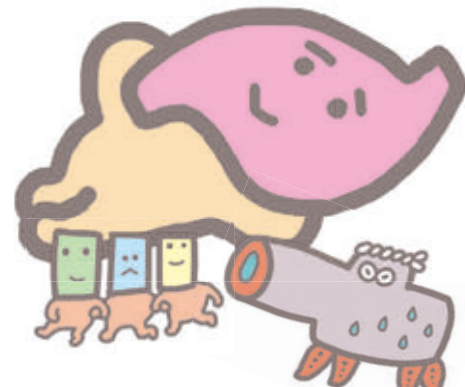
入院している子どもに絵を描いてもらい、それらを学生がアニメーション化して天井に投影し、家族や病院職員で鑑賞するワークショップ「夜空であそぶ」を実施。描いたものがアニメーションとなり、星空を模した天井に投影される体験は、子どもにとって興味深いものであり、子どもたちの笑顔や歓声が絶えない上映会となった。特にあおむけ状態の鑑賞は全身がリラックスした状態となり、子どもが落ち着いた様子になることが確認された。また、世界保健機関が定めた世界糖尿病デーのイベントを告知するため、糖尿病を予防するための体操映像などを制作し、けやき棟エントランスに設置された大型の3面モニターで上映した。全身を縦型のモニターに収め、ほぼ等身大での上映が可能となったため、ポスターなどの従来の紙媒体と比較して視認性の向上が認められた。

#### ●世界糖尿病デーイベント告知ムービー

上映期間=2013年11月11日(月)～14日(木)

撮影・制作=村上史明

依頼=筑波大学附属病院リハビリテーション部



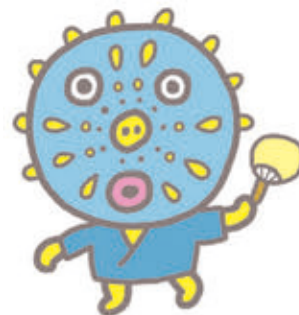


## 小児病棟における「能動アート」プログラムの研究 「花火を描こう!」ワークショップ



「花火を描こう!」ワークショップは、コンピュータタッチパネルを触ったりエアゴムを握ったりする動作を誘導する「能動アート」プログラム。触ったり握ったりする能動的な動作を誘導する「能動アート」プログラムは、アートという自己表現を誘導することによって感性を刺激すると考えられる。「能動アート」プログラムによる患者の気分の改善やリハビリを補助する効果によって、緩和ケアにおけるQOL向上に繋げようとするものである。ワークショップに参加した小児患者は気分が改善し、「楽しかった」「制作した絵はがきが気に入った」「気分転換になった」「また参加したい」と感じており、「能動アート」プログラムの有効性を確認することができた。

「花火を描こう!」ワークショップの様子



場所 = 筑波大学附属病院小児総合医療センター  
プレイルーム

日程 = 2013年12月11日(水)

参加者数 = 患者: 12名およびその家族

実施メンバー = 研究代表: 吉岡聖美 / 機材制作:  
村上史明 / 研究協力: 福島絃子 / ワークショップ  
協力: 岡田由美子、北野雅 / ワークショップ補助:  
小中大地、渡辺のリ子



## 展覧会

# けやきから生まれるいのちII



作品をつくるプロセスを大切にするためのキーワード「一緒につくる」「病院を理解する」「協働する」「環境に寄り添う」「病院にふさわしいものを考える」「気づきを共有する」に基づいたこれまでの活動ドキュメントを展示

上：学生チーム・アスパラガスのユニホームやワークショップで生まれた作品を展示／下：小中大地による滞在制作のアーカイブ展示





## 病院のアートの芽

上：小児総合医療センターのコンセプト「つくばの森」を表現した病棟のサイン/下：同コンセプトを元に制作した雲型の掲示板



大型の3面モニターに学生や教員が、附属病院をフィールドに制作した映像作品を常時上映。写真は筑波大学周辺を撮影し、タイムラプス映像にした作品「みわたすつくば」(村上史明)



左：洋画コースの学生が、風景画実習で描いた作品を渡り廊下に展示。数カ月一度の展示替えを実施/右：書コースの学生が院内展示をふまえて書いた作品

筑波大学芸術と附属病院にてこれまで取り組まれてきた病院でのアートを紹介する展覧会。2012年12月、筑波大学附属病院では新棟「けやき棟」がオープンした。この開院にともない、1階の待ち合いスペースや小児病棟、渡り廊下などの院内各所に展開してきた壁画やモビール、映像作品といったさまざまなアートを公開。2005年より始まった芸術の学生によるプロジェクト「アスパラガス」(→p.22)「パブリカ」(→p.23)をはじめとする病院アートの活動アーカイブやプロセスを展示した。関連シンポジウム(→p.17)やワークショップ(→p.28)なども関連企画として開催。アート、デザインなどあらゆるジャンルの芸術の教員と学生、そして医療の現場の双方から「病院」と「アート」を考える契機となった。



筑波実験植物園と情報デザイン研究室の協働展示。季節ごとにテーマを変えて展示を行っている



働く人をテーマにした写真「つくば働くひと」を院内の複数箇所に展示。演習授業による作品から病院長と教員らによって院内にふさわしい作品を選定した

**展覧会タイトル**=筑波大学附属病院けやき棟開院1周年記念企画展「けやきから生まれるいのちII ― 病院のアートの芽」展

**日程** = 2013年12月9日(月) ~ 2014年5月30日(金)

**会場** = 筑波大学附属病院けやき棟1階 けやきプラザ ほか院内各所

**参加グループ** = 筑波大学芸術支援研究室 / 洋画研究室 / 書研究室 / 総合造形研究室 / 情報デザイン研究室 / プロダクトデザイン研究室 / 環境デザイン研究室 / 建築デザイン研究室 / ADP アスバラガス・パブリカ / 筑波実験植物園 × ADP team ぶらんだ ほか

ワークショップ「ゴブリン博士とクリスマスツリーのかざりゴブリンをつくろう!!」 / 場所 = 筑波大学附属病院小児総合医療センタープレイルーム / 日程 = 2013年12月18日(水) / 参加者数 = 患者: 6名、家族: 6名 / 実施アーティスト = 小中大地



# インターンシップ へ行こう!



## 病院アートマネジメント インターンシッププログラム ——水戸芸術館



水戸芸術館現代美術センターにて教育プログラムコーディネーターを務める中野詩氏による講義を受講。内容としてはおもに、中野氏が個人の活動として東京都世田谷区の医院にて2001年より行っているプログラム「美術待合室」についてや、地方都市の民間病院・高齢者施設での学芸員としての経験、また水戸芸術館での「60歳以上対象プロジェクト」の事例紹介などを伺った。

立ち位置や役割の異なる病院や高齢者施設での豊富な経験から、福祉や医療の現場でアート活動を行うことのおもな問題点やプロセスが提示された。また本学研究員から筑波大学附属病院でのプロジェクトにおける課題などに付随した質問が寄せられるなど、双方で情報を交わす機会ともなった。



日程 = 2013年12月23日(月・祝)

場所 = 水戸芸術館(茨城県水戸市)

参加者 = 筑波大学教員、学生、研究員、一般ボランティア(計25名)



「美術待合室」狩野岳朗 絵画展  
(2013年4月24日～6月30日、中野医院)

## 「美術待合室」および シニア対象企画の活動事例について

中野詩

筆者はこれまでに医療・福祉の現場でアートを介した異分野協働の企画を複数手がけてきた。代表して2つの事例を紹介する。

「美術待合室」は世田谷区の住宅街にある個人経営の医院で、主に作家の作品発表の場の創出や、医療従事者と患者の双方に対する療養環境の精神的整備を目的に2001年に始動した。総合内科の一診の如く多様な症状の患者が訪れる待合室は、極私的な公共空間の様相を呈する。具体的には美術待合室の目的にあう作家を選定し、作品を展示する。鑑賞に訪れる一般客を診療時間内でも受け入れ、休診日には作家在室日を設け医院を交流の場として開放する。思いがけない場所での作品との出会いは患者の心のチャンネルを一時的にずらし、静かな喜びや和みの想いが芳名帳に綴られる。また診察を待つ患者同士や受付職員との間で、或いは診察時に作品にまつわる医師との雑談が増えたのは、対面対話を重んじる医院の診療方針に寄与していると言える。





60歳以上対象ワークショップ 占部史人「時間旅行ーブリキの車にのって」(2012年2月18日、水戸芸術館現代美術センター ※他2日間、水戸市内の高齢者施設2カ所で開催)

水戸芸術館におけるシニア対象企画は加速する超高齢社会の中で、公共の美術館がどのようにアートと心理的・物理的に距離のある社会層に働きかけ地域住民との関係を育めるか、その可能性を探る試みとして2010～2013年に3回行った。作家の作品制作の姿勢や考え方と乖離せず、かつ回想法や箱庭療法の要素を含む造形ワークショップを当館と高齢者施設2カ所で行い、後日、館で参加者と講師作家の作品を展示し、作家と全会場の参加者が一堂に集う鑑賞茶話会を開いた。参加者は互いの作品を鑑賞しながら制作時の想いを語り合い、開催中の現代美術の大型展覧会を対話型鑑賞に卓越したセンター専属のボランティアと堪能した。数日後、家族や友人と再度来館する参加者や展示情報を知った他の高齢者施設の団体が鑑賞に訪れる姿が散見された。これを契機に館の展覧会や催しに足を運ぶ方が現れ、ボランティアとして長期企画に携わるなど参加者の関わり方が深まったことは特筆に値する。

医療や福祉、芸術の世界は様々な専門家から成り、その数だけ常識やルールが存在する。アートを媒介とした上述の現

場では各々の負荷の調整が欠かせない。しかし異分野協働の企画では、普段と異なる「もう1つの日常」を差し挟み、提供者・受け手・繋ぎ手が場面によって入れ代わりながら「セルフ・ラーニング」の状況を得ることが魅力である。これらの活動を通してアートにより様々な固定観念が解放され、価値観を押し広げ、個人がよりよく生きるための一助となりうる手応えを感じた。



なかの・うた  
水戸芸術館現代美術センター  
プログラムコーディネーター。  
2002年千葉大学大学院教育学  
研究科修了。Bunkamura ザ・  
ミュージアム、医療法人博慈会  
外旭川病院、せたがや文化財団  
生活工房を経て2009年より現  
職。乳幼児、小・中・高・大学生、  
シニア層、障害者等、幅広い社  
会層の鑑賞者と作品・作家をつ  
なぐ企画に取り組んでいる。





# アートコーディネーター の仕事とは?





# 筑波大学附属病院の アートコーディネーター



**職名**=アートコーディネーター

**勤務形態**=週1~2日、非常勤職員(2013年6月~)

**勤務場所**=筑波大学附属病院(雇用主)

**業務内容**=筑波大学ADP(アート・デザインプロデュース)チーム アスバラガス、パブリカや教職員らが取り組むアートプロジェクトのコーディネート、附属病院のアート・デザインに関する相談窓口、筑波大学の院内活動に関する相談窓口

筑波大学附属病院新棟のけやき棟が2012年に誕生し、そこを中心に、アートによる療養環境の改善のためアートコーディネーターとして2013年6月より勤務している。私は本学の芸術専門学群総合造形領域を卒業し、かつ学芸員の資格を有しているということでこのような機会に恵まれた。仕事を始めたばかりの頃は、院内にある作品の管理が主な仕事であったが、アートコーディネーターの認知度が上がり、またアートに関する企画も増えてくるなかで、ワークショップやイベントの手伝いなどアートコーディネーターの関わる範囲も広がってきている。アートが附属病院内にて浸透してきていると同時に、病院でアートを展開することの課題も浮き彫りになってきた。課題を一つずつ解決し、医療とアートがより円滑に繋がるよう整理していくのが今後の目標だ。[渡辺のり子]



「つくば動く人」作品設置風景

病院職員と芸術系職員を中心に集まり、企画について報告・検討する「病院のアートを育てる会議」。月に1度の定例となっている



# 筑波メディカルセンター病院の アートコーディネーター



職名=アート・デザインコーディネーター

勤務形態=週1日、非常勤職員(2011年4月~)

勤務場所=公益財団法人 筑波メディカルセンター(雇用主)

業務内容=筑波大学ADP(アート・デザインプロデュース)チーム アスパラガス、パブリカや教職員らが取り  
組むアートプロジェクトのコーディネート、財団のアート・デザインに関する相談窓口



上:「はじまるカフェ」(2012)で学生と病院職員  
が活動発表を行った/下:月に1度開催されてい  
るプロジェクト会議。学生たちが企画案について  
病院幹部らにプレゼンテーションを行い、みんな  
で議論をする

筑波メディカルセンター病院では、2006年から筑波大学芸術と協働でアートプロジェクトに取り組んできた。2011年になると急性期病院としての実情や課題に向き合い、アートとしても質の高いプロジェクトの展開が求められるようになったため、病院職員と芸術の学生らの通訳者であり、プロジェクトマネージャーでもあるアート・デザインコーディネーターが設けられ、勤務している。病院職員や芸術の学生による活動報告、ケアとアートについてのトークイベントなどを行う「はじまるカフェ」「ひろがるカフェ」、職員参加型で空間改善のアイデアを出す「妄想ワークショップ」(→p.23)の企画など、病院側・芸術側がともにケアする環境について議論しながら、環境改善を行うための仕掛けづくりに取り組んでいる。[岩田祐佳梨]



*The title of this program and its report is as follows ;*

**BEYOND MUSEUMS :  
ARTS MANAGEMENT PROGRAMS IN A MEDICAL ENVIRONMENT SUPPORTED  
BY ARTISTS, DESIGNERS AND CURATORS**

---

This program and its report was directed by  
THE UNIVERSITY OF TSUKUBA, JAPAN

This program and the publication of this report was supported by the  
AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS, DAIWA ANGLO-JAPANESE FOUNDATION and THE GREAT BRITAIN SASAKAWA FOUNDATION

*Contents*

Foreword and Acknowledgements

- 1 Research Trip to the UK and Japan
- 2 Symposium at the University of Tsukuba Hospital, Japan
- 3 Practice
- 4 Internship
- 5 Hospital Art Coordinator

Appendix

---

*Cultures of Care Symposium 2013 at the KEYAKI Plaza, University of Tsukuba Hospital :  
Bridging Arts and Healthcare in Japan and the UK*

DAY 1

Date: September 4, 2013

Welcome Remarks

By Dr. Tetsuya Igarashi,  
Director of the University of Tsukuba Hospital  
and By Prof. Shinichi Tamagawa,  
Provost of the Faculty of Art & Design, University of Tsukuba

“UEA in Norwich/UK as a Platform for Research with and on  
Japan” [JP]

By Prof. Ulrich Heinze, Sasakawa Lecturer in Contemporary  
Japanese Visual Media at the University of East Anglia

“NNUH Hospital Arts Project Part 1” [JP/EN]

By Ms. Emma Jarvis, Hospital Arts Coordinator,  
Norfolk and Norwich University Hospital

“Writing as Healing: A Practical Workshop” [JP/EN]

By Bernardo Bueno, PhD, University of East Anglia

“Nurturing Arts in Hospital”

By Prof. Momoyo Kajima, Associate Professor,  
Institute of Art & Design, University of Tsukuba

“My Activities in Team Asparagus and Team Paprika ”

By Ms. Yukari Iwata, PhD candidate,  
School of Art & Design, University of Tsukuba

Open Workshop

By Team Asparagus

Closing Remarks

By Prof. Momoyo Kajima

DAY 2

Date: September 5, 2013

Opening Remarks

By Prof. Yasuyoshi Saito, Professor,  
Faculty of Art and Design, University of Tsukuba

“NNUH Arts in Hospital Project Part 2”

By Ms. Emma Jarvis, Hospital Arts Coordinator,  
Norfolk and Norwich University Hospital

Presentation of Findings and Closing Remarks

By Prof. Herbeth L. Fondevilla,  
Assistant Professor, Faculty of Art and Design,  
University of Tsukuba

Open Jazz Concert

By Prof. Kazuyoshi Watari, Associate Professor  
and JAZZ circle

## 活動一覧表

### 「適応的エキスパート」としてのアートマネジメント人材の育成

— 病院を活用した多様空間・異分野協働によるアートマネジメント能力の向上に向けて —

1. 病院アート&デザインプログラム  
講座名：アート&デザインプロデュース  
場 所：筑波大学、同附属病院 ほか
2. アート&ガーデンセラピープログラム  
講座名：アート&デザインプロデュース ほか  
場 所：筑波大学、同附属病院、筑波メディカルセンター病院 ほか
3. 水戸芸術館におけるインターンシップ  
講座名：水戸芸術館におけるインターンシッププログラム研修  
場 所：水戸芸術館、筑波大学
4. 演習科目の開講  
講座名：アート&デザインプロデュース/芸術支援学演習  
場 所：筑波大学、水戸芸術館
5. 講義科目の開講  
講座名：芸術支援学特講 ほか  
場 所：筑波大学
6. 病院アート&デザイン国際シンポジウム及び国内シンポジウム  
場 所：筑波大学附属病院けやきプラザ
7. 報告書の作成
8. 映像による病院アート & デザイン紹介(本事業の活動記録)

### 掲載媒体・広報実績

- 雑誌『CB News Management』（発行＝キャリアブレイン、2013年9月8日）  
「アート&ケアの空間演出！ 学生らが院内創作—筑波大病院、患者交え『彩り』を」
- ウェブサイト「つくばスタイル」（URL＝<http://www.tsukuba-style.jp>）  
「新しい病院空間 ～筑波大学附属病院けやき棟～」(2013年9月12日)  
「病院をカラフルに！ ～筑波大学附属病院けやき棟～」(2013年9月18日)
- ウェブサイト「筑波大学」（URL＝<https://www.tsukuba.ac.jp>）  
「けやきから生まれるいのちII—病院のアートの芽」展(2013年12月9日)  
「けやきから生まれるいのちII—病院のアートの芽」展シンポジウム 病院のアートを育てるために  
(2014年1月29日)
- 会報誌『INFORMATION FROM JIHA』（発行＝一般社団法人日本医療福祉建築協会、2014年1月1日）  
「けやきから生まれるいのちII—病院のアートの芽」展
- ケーブルテレビ「つくば ACCS」告知コーナー（2014年1月25日～28日放送）  
シンポジウム「病院のアートを育てるために」
- 『筑波大学新聞』（発行＝筑波大学新聞、2014年1月27日）  
「筑波大学附属病院『けやき棟』に学生の作品展示」
- フリーペーパー『つくキャラ』（発行＝フリーペーパー『つくキャラ』編集部、2月号）  
「けやきから生まれるいのちII—病院のアートの芽」展

事務局スタッフ＝齊藤泰嘉(芸術系教授)、鈴木雅和(芸術系教授)、貝島桃代(芸術系准教授)、岩田祐佳梨、小中大地、佐藤恵美、吉岡聖美(以上、芸術系研究員)、井田まどか(齊藤泰嘉研究室事務補佐)

# CARE × ART IKI IKI HOSPITAL



筑波大学芸術学系棟

## ケア×アート いきいきホスピタル

平成25年度文化庁助成〔大学を活用した文化芸術推進事業〕筑波大学プログラム報告書  
「適応的エキスパート」としてのアートマネジメント人材の育成  
—病院を活用した多様空間・異分野協働によるアートマネジメント能力の向上に向けて—

BEYOND MUSEUMS : ARTS MANAGEMENT PROGRAMS IN A MEDICAL ENVIRONMENT SUPPORTED BY ARTISTS, DESIGNERS AND CURATORS

2014年3月31日発行

発行＝筑波大学芸術系

〒305-8574 茨城県つくば市天王台1-1-1

TEL / FAX : 029-853-2856

編集＝齊藤泰嘉、鈴木雅和、貝島桃代、小中大地、佐藤恵美、岩田祐佳梨、吉岡聖美、井田まどか

編集協力＝筑波大学附属病院、筑波メディカルセンター病院

デザイン＝(有)キオイオフィス

イラスト＝小中大地

執筆＝齊藤泰嘉、村上史明、ハーベス・リム・フォンデビリヤ、渡辺のり子、佐藤恵美、岩田祐佳梨、吉岡聖美、井田まどか（以上、筑波大学）  
中野詩（水戸芸術館現代美術センター）

印刷＝(株)帆風

助成＝文化庁 平成25年度大学を活用した文化芸術支援推進事業

©University of Tsukuba, 2014

All right reserved

Printed in Japan

